

2020年度

コノテラ通信はコノミヤテラスの日々の出来事や地域の情報をお知らせする通信紙です。
その通信に見立て「協働する学生のチカラ版」として活動をご紹介します。

コノテラ通信

協働する学生のチカラ 2020 版



南花台地域を眺める。UR南花台団地の外壁塗装が完了し、緑の中に浮かぶ白い集落のような景観となった。

イズミヤ河内長野店で塗ってみよう会を開催

昨年度、研究室活動の一環で「イズミヤ河内長野店」の改修活用提案を行いました。今年度は実際に活動を行っていくこととなりました。

南花台でも活動当初は、「まずは自分たちの手で、街をきれいにする活動をやってみよう！」というコンセプトで塗ってみよう会をスタートしましたが、イズミヤ河内長野店でも今後様々な地域住民との活動を行っていくことを想定し、きっかけとして塗ってみよう会を実施することとなりました。

8月から11月にかけて合計6回開催し。初回にプロの塗装屋さんからレクチャーを受け、関西大学・武庫川女子大学の学生や店舗関係者の方と一緒に作業しました。

当初、苔や蜘蛛の巣で覆われたベンチ等があり、ひとけのない広場でしたが、楽しげで手作り感のある広場とすべく、現地で色を検討しながら、ベンチだけでなく、広場を囲うように配置された手すりや街灯、リサイクルBOXも塗装しました。塗装後は決して多くの人数が集まっているわけではないが、コーヒーを飲みながらたずむ人や高校生が談話する風景が増え、店舗関係者からも喜んでいただいています。



何気なくたずむことのできる場所になりました!



職人さんが丁寧にレクチャーしてくださいました!



店舗従業員の方々も一緒に塗装。ガラスに貼った広告も剥がしました!



塗装前の様子



手すりも丁寧に塗装しました!



子供たちも一緒に作業!

「クルクル」の活動拠点を地域の方々とつくりました!

9月下旬から10月上旬まで約2週間かけて、クルクルの活動拠点を地域の方々と一緒につくりました。運行に関する打ち合わせや乗車の受付所として活用しています。おおさか河内材をふんだんに使い、利用者からもやわらかい雰囲気が感じられると好評です。



木材に囲まれた小さな拠点です。



塗装はもちろん自分たちで!



改修前の様子。



受付後も利用者とお話できるようになりました!



木材加工も自分たちで!



クルクルもコロナ仕様で運行しています。

咲っく南花台の令和2年度の活動

「咲っく南花台」は平成26年10月に立ち上がった「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業の愛称です。住民・学生・行政・企業…いろんな団体が協働で「とにかくやってみよう」「やりながら考える」をモットーに持続的なニュータウン形成のための様々な取り組みを行うプロジェクトです。

令和2年度の咲っく南花台の活動



毎朝のラジオ体操後屋外でマスクして談笑。



月一回のスマホの日は一緒に勉強します。

UR南花台団地の外壁塗装工事が完了しました!

2019年の秋頃から約1年間工事が進んでいたUR南花台団地の外壁塗装工事が完了しました!丘の上にある南花台団地は河内長野の様々な場所から見えるのですが、遠くからでも変化が分かり、丘の上の白い集落のような景観に生まれ変わりました。全棟塗装デザインが異なり、歩いていても何気ない微妙な変化が楽しめる空間となっています。



郡としての景観が生まれています。



全棟異なる色彩デザイン



高層棟も低層棟も連続感があります。

コロナ禍での活動

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年3月ごろから様々な活動を制限せざるを得ませんでした。そんな状況下で、毎朝10時のラジオ体操や「孫とスマホで連絡取りたい」との声からスタートしたスマホの日など、感染対策を行い、実施してきました。対面でのつながりが制限される中で、地域の皆さんと話し合いながら活動の継続と実践に試行錯誤した1年でした。

咲っく南花台って?

HPでチェックできます!
咲っく南花台.com
▶ <http://nankadai.com/sac>



新型コロナ禍における暮らした変化

今年の3月以降、私たちを取り巻く社会環境が大きく変わり、毎朝の日課である「朝10時からのラジオ体操」にも大きな変化がみられました。

4月以降、外出自粛を余儀なくされる中、ラジオ体操の参加者は日に日に増え、5月の連休明け頃には、40人を超える方が集まることもありました。

「少しでも家を出てリフレッシュできる場所があったよかったです」と、参加者からの声が多く寄せられ、これまで6年間毎日継続してきた活動が思わぬ形で実を結び、「支え合いの基盤」となっていることが実感できました。だんだんテラスは「住民が気軽に集まれる場所」を目指していますが、この状況は改めて運営について考える機会となっています。

現在、ラジオ体操の参加者の数は、徐々に平常時に戻りつつありますが、これからも変化に対応しながら柔軟に運営を続けていきます。だんだんテラスでの活動も徐々に再開しているので、裏面の予定欄をご確認いただき、ぜひご参加ください。

だんだん通信7月号より抜粋

2020年度 だんだんテラスの活動



図書館等の公共施設が休館となった影響もあり、中央センター商店街の一角（バス停前のベンチ付近）に並べている文庫本を借りていく方も多くなりました。現在は、自分のいらぬ文庫本も持ち込んで本棚に並べてくれる方も増えています。

手作りマスク製作や配布などの「支え合い」

だんだん手作り市のメンバーが手作りマスクを製作し、ラジオ体操の参加者に配るなど、みなさんの得意なことを通して「支え合い」がうまれていました。3月末には、マスクも行き渡り、コミュニティの力を感ずることができました。

だんだん句会と八幡支援学校の授業交流 —「ことばをつなごう」をテーマとした俳句づくり

これまでなかなか俳句を作ることができなかった生徒が、当日中に三句もの俳句をつくる等、とても意欲的に活動に向かう姿が印象的で、実際にたくさんの俳句が生まれました。一緒に俳句を作る中で生徒達を見守っていただき、作った作品を大いに評価して下さることで、生徒達は自信をもつことができました。また、一生懸命に俳句を作る生徒の姿に感心する。そんな双方向のやりとりがあって、大変貴重な交流となりました。（一部抜粋） 上田優介先生 / 八幡支援学校 教育交流部

支援学校の生徒に接すると自分が見えてきます。自分の卑しさを愚かさが炙り出されます。今回も、兼題のコスモスの写真を前に黙考する女生徒に、手助けのつもりでコスモスに関する言葉をあれこれ投げかけても、彼女は黙ったままです。やおら、彼女が書いた文字が「秋風」でした。私には見えない「風」を見て、彼女は言葉を探していたのです。消え入りたかった思いでした。（一部抜粋） 塚本正 / だんだん句会

海を越え八幡に降り立つ秋の羽

M2 藤居君の俳句が入選しました！



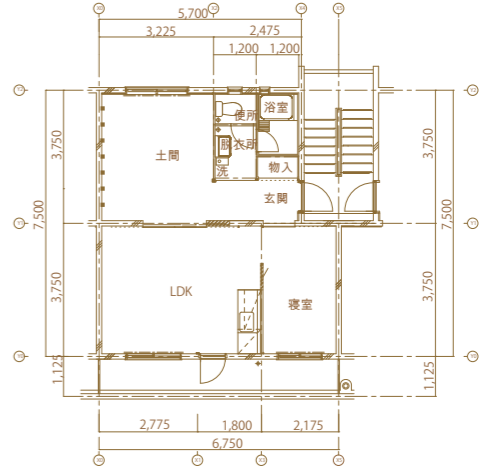
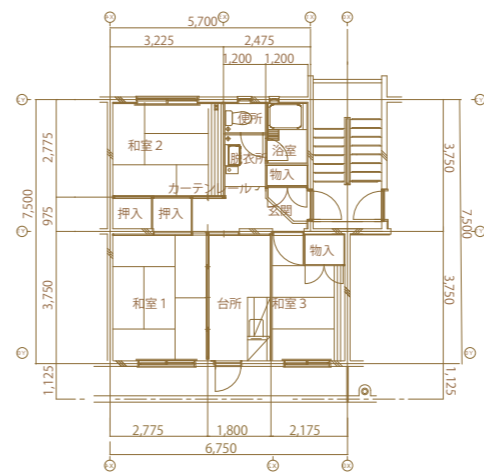
男山で 協働する 学生の チカラ

平成24年度から継続して関わり続けて今年で7年になります。当初の課題が徐々に解決され、新たな課題が見えてきました。令和2年度の協働する実践をここにまとめています。

「ターガウ」（羽根を脚で蹴るベトナムの伝統的な競技）をする若者たち

秋空の下で公園に集まり

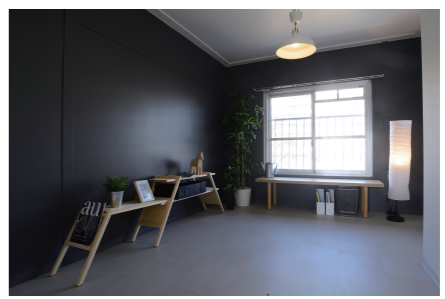
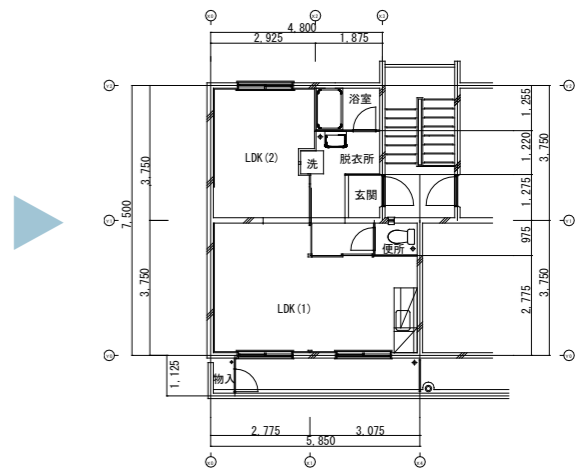
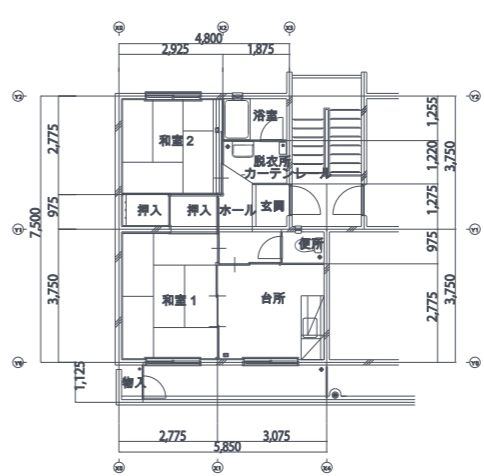
広がる
D地区から
D地区まで



ペンキ塗りWS
 内壁のペンキ塗りは京都府建築会の方や地域の子供達、関西大学の学生と一緒に塗りました。



小さく広く住む



【D地区集会所】
 三つの庭（＝公共空間）と三つの小屋（＝公共的施設）にリノベーションし、「食」から発想する様々な活動が循環する価値拠点を提案しました。集会所内は外部空間との繋がりを生み出す設えとします。屋外ベンチなど仮設家具を設置し、屋内・外に賑わいが見えるようにします。また、キッチンスペースを設けて、利用方法の可能性を広げました。

【小さく広く住む】
 この住戸は近くに今年改修が行われる集会所があり、緑道に面していることから、ひとけがありながらも緑に囲まれた住戸となっています。洗濯機の移設により、水回りを広くしつつ収納スペースを確保しました。玄関から入る部分に透明の引き戸、欄間を設けることで、玄関周りを明るくしつつ緑に囲まれていることを強調しています。

【D地区から広がる】
 この住戸は北側には公園があり、南側には木々が生い茂っています。北側の部屋を窓から外に開いている広い土間とし、住民や友達が集い談笑が可能な場とし、南側をリビングダイニングと寝室として設計しました。土間の壁には垂木を打ち込み、ブラケットを用いて飾り棚やデスクなど、DIYで自分の空間を創ることが出来る余白を設けました。

UR都市機構と協働
 リノベーション

今年度も男山団地において、関西大学団地再編プロジェクト

UR都市機構によるリノベーション住戸が完成しました。今年度はC地区の一階住戸のプロトタイプモデル提案を行い、団地特有の屋外空間をも活かすことにも繋がります。また、D地区では集会所と合わせて住戸をリノベーションしました。最小限のコストによるプロトタイプモデルを設計し、D地区集会所との関連による男山団地にしかない魅力的な暮らしの提案を行いました。

毎月第4日曜日は佐治の町が楽しくなる!

サジイチ

毎月第4日曜日に宿場町である佐治を舞台に、佐治全体が一つのお店のようなマルシェを佐治倶楽部の会員、地域の商店さんが合同で企画している。佐治倶楽部が管理している空き家である、「本町の家」「衣川會館」「センバヤ」の3つを地域に開放している。



本町の家では「ホンイチ」が開催



衣川會館で「キヌイチ」が開催



サジイチの日の佐治の通り

サジイチにおける学生の提案

佐治の宿場町の魅力的な屋外空間の活用を目的に、「来楽館」のスペースをお借りし、ハンモックの設置やWSを実施した。季節に合わせて、屋外暖房の設置も行った。サジイチの様子をSNSで発信したり、オリジナルエコバッグのデザインから制作まで行うなど、サジイチのファンを増やす取り組みも行っている。また、サジイチ出店情報を記載したサジイチMAPの作成も行った。



サジイチ MAP



木いホルダーWSの様子



屋外空間を活用してハンモックを設置

空き家活用を考えるチーム

CHATTA

チャッタ

地域有志の方々、ATACOM 参加学生、関西大学佐治スタジオスタッフで地域の空き家について実践を通して考えていくチームとして活動している。CHATTA (チャッタ) とは、丹波地方の方言の一つであり、「~している」という意味を表す。現在進行系で様々な出来事が町の中に溢れることを願って命名された。

CHATTA の三本柱

空き家を活用する上で次のような活動コンセプトを指針にしなが、地域全体の暮らしの環境がよくなることを目指している。

【商いの拠点】

商いの町の歴史を活かして、地域の中に賑わいを生み出すような活用方法を考える。

【学生の拠点】

地域と学生の日常的な交流、実践的な学びの場としての活用方法を考える。

【チャレンジの拠点】

地域の方々や学生が成松の地域でやってみたいことをチャレンジできる場所として空き家を活用していく。

毎月1回 CHATTA 会議を実施

2017年11月に第一回が開催された、「空き家についての意見交換会」を前身として、毎月一回のペースで、CHATTA 会議を行いながら、CHATTA の拠点化に向けた話し合いや、イベントに向けての企画準備等に関して話し合いを続けている。地域の方々とは30代~60代まで幅広い年齢層が所属し、現在は13名のメンバーが主に所属している。



CHATTA のロゴ



CHATTA 会議の様子

朝勉強の会に参加

8月8日と11日に、地域の小学生に夏休みの宿題を教えながら交流する企画に協力する形で学生が参加。愛宕祭や大きなイベントがない中で、初参加の学生が成松に関わるきっかけとなった。



朝勉強の会の様子

CHATTA のこれまで

交流型定住を促す「空き家活用モデル」の調査活用プロジェクト 2009
関西大学が中央地区に関わり始めるきっかけとなったプロジェクト。地域の方々の意見を通して、「まずは、地域のことを知ろう!」ということになった。

ATACOM 発足! 2010
愛宕祭での造り物づくりを通して地域を知ることからスタート。以降、毎年20名前後の学生有志が成松に関わり続ける。

軽トラ市に空き家を使って参加 2018.3
空き家について地域の方へインタビュー。

活動チーム名を「CHATTA」と命名 2018.6

軽トラ市に空き家を使って参加 2019.3
空き店舗への出店を公募形式で決定。4軒の空き家に出店いただき、今までにない風景を作ることができた。

空き店舗で夜祭りし CHATTA vol.1 2019.7
CHATTA の主催事業として、空き店舗の活用イベントを実施。3軒の空き家を活用し、近所の方が気軽に集まる場所ができた。

空き家についての意見交換会スタート 2017.11
地域有志の方々、ATACOM 参加学生、関西大学佐治スタジオスタッフ、で空き家について意見交換を行う。様々な事例を調べずは自分たちでできることから始めていこうということに。

丹波篠山市福住へ視察 2018.9
空き家活用による地域づくりを学ぶ。

空き店舗で夜祭りし CHATTA vol.2 & 軽トラ市 2019.11
軽トラ市の前夜祭的に夜祭り vol.2 を実施。冬場で入出は少なかったが、確実に活動の認知度は上がった。また、翌日の軽トラ市でも空き家を活用してWSなどを企画・実施した。

軽トラ市に空き家を使って参加 2018.11
空き家について地域の方へのインタビューと同時に、空き家を使ったWSとカフェも実施。

空き家(加納屋)の借用を検討する 2020.6
CHATTA の主な活動場所となっている「加納屋」の本格的な借用に向けて動き出した。

成松商店街の空き店舗でハロウィンし CHATTA

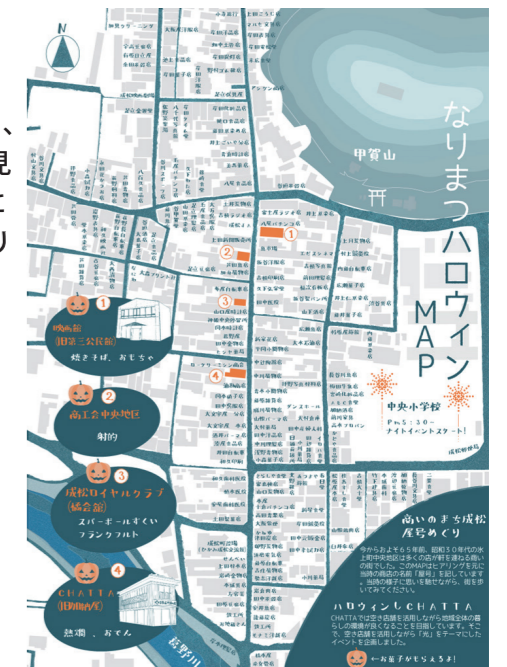
コロナ禍の影響もあり、3月、11月の軽トラ市、愛宕祭、など地域の行事が軒並み中止となった。そのような状況の中、約一年ぶりに CHATTA 主催の地域イベントを開催することができた。中央小学校のグラウンドで花火が上がると、夜の部がスタートすると、大勢の仮装した小学生と親子で商店街は賑わいを見せた。地域の方々にも協力していただき、4軒の空き家を活用したイベントになった。空き家の二階に設置した影絵、手持ち提灯、屋号キャンドルなど灯りをテーマにイベントが企画された。このイベントをきっかけに CHATTA の取り組みに関心を持つ人が増え、質問をされる機会が多くなった。



仮装した子どもにお菓子を配る



商店街の通りが賑わいを見せた



関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくり

活動は四年目を迎えました。今年は身の回りの環境を見直す年になりました。大野の環境を見つめ直して、まちのひとたちと一緒につくること、時間を共有すること。そういった日々のみんなの小さな記憶がこの場所に少しずつ堆積していつかあります。

Mt.kyougatake

よこまちミミズコンポスト



横町スタジオにミミズコンポストを設置しました。まちの生ごみをミミズたちが食べてキレイにしてくれます。コンポストを開けて、少しずつゴミの減っていく様子を観察するのがめっちゃ楽しいです。

ミミズと暮らす

どきどき泥祭り



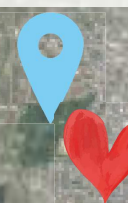
福井大学・関西大学の学生と一緒に地元の川で粘土を掘りました。ぬかるみで転びそうになったり、粘土掘りに夢中になるうちにびしょ濡れになる子もいました。童心に還って掘ってるうちにみんな何かしら汚れます。泥が付いているのは一緒に働いた証です。掘った粘土はワークショップでの器づくりやスタジオ改修に使います。

泥神様に感謝を捧げます



大野城

I am 泥神!



HERE 横町スタジオ



「不細工だからこそ愛着がわく」



地元で掘った粘土をつかって、地域の人たちと一緒にカレー器やタイルづくりをしました。大野の陶芸教室の先生に教えてもらい、粘土に触れるのを楽しみながら、みんなそれぞれの味がでた愛らしい器が出来ました。

Kadohara



横町 バーベキュー大会

毎年横町で開催しているバーベキュー大会を今年はスタジオで行いました。みんなで机を囲んでお酒やごはんをワイワイ楽しみました。「こういう場所がいいね」そういった声が聞こえてくる場所になりました。



「こういう場所がいいね」

M t .Arashima

だれでも出来ることだから

みんなで出来る

今年の横町スタジオオリノベーションは「みんなで一つのモノをつくる」ことを大切にしました。それはみんなで一緒にワイワイつくった時間を共有することに意味があると思っています。子供も大学生も大人もごちゃごちゃに混ぜて昔やった「工作」の延長として、遊びのモノづくりを楽しみました。

Mt.Ifuri



2020年度の活動における協働者・団体

【丹波市 佐治スタジオ】

- サジイチ -

- ・ 佐治自治協議会
- ・ 佐治商店街のみなさま
- ・ 建築環境デザイン研究室
藤居省伍、木村聡史、足立祐花
- ・ 関西大学建築学科
定真之介、宗安勇輝
- ・ ふるさとづくり青年隊事業 公募青年
鷺田真緒（武庫川女子大学）
北沢恵里佳（関西大学商学部）
- ・ 佐治倶楽部のみなさま
- ・ 佐治地域のみなさま
- ・ 関西大学佐治スタジオスタッフ
- ・ 兵庫県青少年本部

-CHATTA-

- ・ 関西大学建築環境デザイン研究室
藤居省伍、木村聡史、足立祐花
- ・ 関西大学建築学科
宗安勇輝、破田野雄己、八王子富代
- ・ ATACOM 卒業生
中村穂希、江馬良佑
- ・ 中央地区自治振興会のみなさま
- ・ 商工会中央地区のみなさま
- ・ 成松ロイヤルクラブのみなさま
- ・ 中央地区のみなさま
- ・ 関西大学佐治スタジオ

【八幡市／男山団地】

—だんだんテラス・だんだんラボ—

- ・ 関西大学団地再編プロジェクト
- ・ 提案部会のみなさま
- ・ 関西大学佐治スタジオ（出町慎、植地惇、関谷大志朗）
- ・ 辻村修太郎（地域コーディネーター）
- ・ 独立行政法人都市再生機構
- ・ 京都府
- ・ 八幡市
- ・ 男山中央センター商店会
- ・ 京都府立八幡支援学校
- ・ 男山児童センター
- ・ 学校支援地域本部
- ・ 京都府建築士会青年部会のみなさま
- ・ ラボの会
- ・ おひさまテラス
- ・ 男山やってみよう会議メンバー
- ・ 地域包括ケア複合施設 YMBT
- ・ UR 男山団地自治会（A,B、八望）
- ・ 手作り市メンバー
- ・ 八幡地域猫を考える会
- ・ 朝市の農家の方々
- ・ だんだん句会
- ・ だんだんテラス・ラボ利用者のみなさま
- ・ 京都：Re-search の関係者のみなさま

—住戸改修—

- ・ 一般社団法人カンデ / 辻村修太郎、植地惇
- ・ 建築環境デザイン研究室
M1：藤本恭輔
B4：木村聡史、松岡桜子
- ・ KSDP 提案部会
江川直樹（建築学科 教授）、野村正晴（建築学科 助教授）、安原秀（OLA の会）
三谷幸司（三谷都市建築設計室）、菊田純一（菊田建築計画研究所）
- ・ 独立行政法人都市再生機構

【河内長野市】

- 咲っく南花台／コノミヤテラス -

- ・河内長野市
谷ノ上浩久、山田浩太、槌野貴公、藤田晃正、寺本英之、土井哲、浦田尚代、吉富裕子、山本佐知子、藤本将史、吉川健三、繁田晃一、坂ノ上洋、和藤亜子
- ・大阪府 / 富田将行、扶蘇美香、赤西香、
- ・河内長野市社会福祉協議会 / 土橋崇之、信夫幸子
- ・UR 都市機構 / 松岡弘幸、中村寿宏、入野啓太、久恒沙希、志知治、樋口由佳
- ・株式会社コノミヤ
- ・特定非営利活動法人 SEIN/ 宝楽陸寛
- ・atelier NOAHNOOR/ 天川麻子
- ・株式会社アーバンリバーズ / 太田隆司
- ・無有建築工房 / 竹原義二、大八木裕道、齋藤由希子
- ・E-DESIGN / 忽那裕樹、山田匡、仲山真央
- ・関西大学建築環境デザイン研究室
- ・関西大学社会学部教授 / 与謝野有紀、林直保子
- ・関西大学建築学科教授 / 大影佳史
- ・一般社団法人カンデ / 出町慎、野々山稔、福本優、辻村修太郎、植地惇
- ・武庫川女子大学 / 後藤田葵、橋本沙樹、木村友香
- ・錦秀会看護専門学校 / 大給孝明
- ・咲っく南花台事業者の会
- ・南花台自治会のみなさま
- ・UR 南花台自治会のみなさま
- ・南花台まちづくり会のみなさま
- ・南花台自治協議会のみなさま
- ・南花台中学校区青少年健全育成会のみなさま
- ・たくさんの南花台・石仏住民のみなさま

イズミヤ河内長野店改修

- ・エイチ・ツー・オー リテイリング (株) / 杉本良平
- ・(株) エイチ・ツー・オー 商業開発 / 原田綾子、岸上 健
- ・河内長野市森林組合 / 堀切修平、尾ノ上貴浩
- ・クラウドアーキテツ / CLOUD ARCHITECTS / 川上真誠

【大野市 関わり続ける定住のカたちによる結の故郷づくり事業／横町スタジオ】

- ・大野市 × 関西大学地域連携協定 / 大野市総合政策課のみなさま
- ・川瀬幸男
- ・建築環境デザイン研究室 / 江川直樹
- ・一般社団法人カンデ / 出町慎、辻村修太郎、植地惇、関谷大志朗
- ・提案部会 / 安原秀、三谷幸司、菊田純一
- ・横町編集部のみなさま
- ・日吉町一区のみなさま
- ・マッスル出版社のみなさま
- ・大野おさんぽアートミュージアムにみなさま
- ・マイカレーライスプロジェクトのみなさま
- ・泥祭り of みなさま
- ・わたしが未来の市長プロジェクトのみなさま
- ・福井大学のみなさま
- ・駐車場活用提案実行委員会のみなさま
- ・生ゴミ 0 ミミズコンポストプロジェクトのみなさま

【そして、ここに書ききれない見守ってくださったたくさんの方々】